

政策創造学ニューズレター

(愛称：テルマエ通信)

読者の皆様、ご無沙汰しております。テルマエ通信こと、政策創造ニューズレターでございます。

初めに、誠に勝手ながら8月・9月と夏休みを頂きました。事前の連絡もなくお休みを頂いた事をお詫び申し上げます。

さて、日増しに秋の深まりを感じる今日この頃であります。皆様今年の秋はいかがお過ごしでしょうか？秋と言えば、読書の秋、スポーツの秋、食の秋等まさに十人十色の秋があると思われませんが、我が研究科にもう一色秋の色を付け加えるのであれば研究の秋と言えるのではないのでしょうか。自習室では論文提出に向けクマ(隈)を作りながら研究に熱を入れ取り組んでいる学生の姿も見受けられます。

今月号では、そんな学生たちの夏に行われた中間発表特集に加え、大学間連携や毎号続く研究室紹介第5弾坂本研究室紹介、岡田先生の退官、新着情報という内容を送りさせていただきます。つかの間の休息をぜひ今月号のテルマエ通信に目を通してみてください。 ■ (井嶋充憲)

修士・博士論文中間発表特集

今年も、法政大学大学院政策創造研究科の修士・博士論文中間発表会が7月31日、8月1日と2日間にわたり開催されました。中間発表会について

発表対象は、修士課程が今年度修了予定の方、博士後期課程の方は全員となっております。修士50名に加え博士25名の計75名の方々が発表会に参加されました。まずは発表会についての詳細、発表会前の学生の様子から紹介させて頂きたいと思えます。

発表方法は、修士が20分(発表10分、質疑応答10分)、博士後期課程が30分(発表15分、質疑応答15分)という内訳です。また、発表時においてPPT(パワーポイント)の使用は禁止されているため、「PPTを用いて発表させてほしい!」との学生の心の声が届いてきそうです。これは、単なる発表のみならず、論文としての文章力・構成能力も求められるためです。なお、発表は修了の必須条件であるため、対象者は2日間あるうちのどこかで必ず発表しなければなりません(但し、日程調整・時間調整は可)。

また、修士課程の方は、論文全体の目次・要旨(A4サイズ1〜2枚程度)、博士課程後期の方が論文全体の目次・要旨と今回の発表内容の要旨(A4サイズ2〜3枚程度)になっており、これらの資料は事前に提出しなければなりません。

そのため、発表会の事前には多くの学生が、今年の猛暑に負けず学校まで足を運び、PCに向かい発表の準備として研究のまとめ・提出資料作成に切磋琢磨し取り組んでいる姿が多く見受けられました。さらに、個人が研究をするだけでなく、周りの仲間と共に確認し合いながら研究の方向性や文章表現や構成等のチェックを入れている光景は、中間発表が迫ってきていることを改めて実感し、自分も頑張らねばという気持ちにさせられました。自習室に目を向ければ、キーボードを叩く音や話合う声が聞こえ、コーヒーの香りが漂い、自習室はいつものない人や活気に満ちた雰囲気がありました。

発表会から得るもの

この発表会の特徴は、大きく3つのメリットがあります。1つ目は、自分の所属するプログラム及び研究室以外からの違った視点やアドバイスを頂けること。これは、もう一度自分の研究を客観的に見つめ直すといったところに特徴があり、研究の方向性を修正・確認するといった1つの重要な研究作業でもあります。

2つ目は、コメントシートの存在です。コメントシートとは言葉通りコメントを書くための用紙であり、どのように活用されているかと言いますと、聴講者が、発表者の発表に対し感じた事や思った事等を書き留めます。そして、発表会の最後にコメントシートは回収され、自分が記したコメント

トは後日、発表者の手元に届くというシステムです。多くの人からの意見やご指摘は、知的欲求が満たされるうえ効率的に研究が進められることだと思えます。

3つ目は、まさにプラットホーム型の発表会であること。プラットホーム型とは、様々な知識や考えを持った人々が、同じ立場でそれぞれの意見や考えを発表者にぶつけ合い、方向性を見いだしていくことです。私は、このプラットホーム型の、何か新しいものや考え方が生まれて来るような期待感を抱かされます。おそらく、先代の方や過去の偉人も、何もないところから沢山の議論を繰り返し断片化されている思想や考えを一般化してきたのではないのでしょうか。



コメントする黒川和美教授

Do your BEST

年度末に開催した発表会を思い返せば、この半年間の間に確実に周りの皆さんのレベルが高まってきていることに気付かされました。研究が着実に進んでいる方は発表を終え、晴れ晴れとした表情を浮かべる一方、なかなか明確な研究テーマや研究対象・研究方法が定まらずに苦労されている方もおり、各自の課題は大なり小なり様々です。しかし、発表会を通じ、多くの学生が中間発表の重要性を痛感させられたことでしょう。

最後に、発表者の皆様大変お疲れ様でした。今回の発表会で学んだことを活かし、お互いに切磋琢磨し精進しましょう。皆様のことからの研究成果を心より楽しみにしています。 ■ (井嶋充憲)

プログラム紹介⑤

地域産業政策群

中小・ベンチャー・起業家プログラム 坂本研究室

ご存知『日本でいちばん大切にしたい会社』の著者、坂本光司先生の研究室の紹介をいたします。私たちのゼミでは、世のため人のため活動している優良企業を調査研究することが主な活動となっています。北にすごい会社があると聞けば北海道まで飛んでいき、ぜひ行った方がいいと言われるべし沖繩にも駆け付けます。人呼んで、け

ものへん。狂の字の部首をもじつたもの。私自身、視察に訪れた企業や商店街は、1年で50か所を優に超えました。それでも先生は、これまでの視察件数は6300社というのですから、あと120年やっても追いつきません。日本でいちばん忙しいゼミといえるでしょう。しかし、本当に感動的な企業や素晴らしい経営者に出会えたときに、今を生きている充実感、人間って素晴らしいと心が栄養で充満されるのです。そして、それは、自分たちの本業や、仕事で必ずプラスの方向へ働きます。経営は現象問題に目を奪われることなく、その現象を引き起こしている本質問題を除去することこそ要諦という先生の教えが、まざまざと見せつけられる現場体験で徹底的に骨の髄まで沁みついてくるからです。



坂本光司研究室

当研究室の特長は、本来のゼミに加えて、いくつもの研究会が同時に活発に活動していることです。価値ある企業の経営指標策定研究会、障がい者雇用研究会、モチベーション研究会、経営理念研究会、リーダーシップ研究会などゼミ生が発起人となったリ、あるいは外部の企業からの企画で産学共同で派生していきます。自分が研究したいと思ったテーマで自由に会を発足させることが出来ます。もちろん成否は、発起人の本気度、熱意によります。素晴らしいことは、当研究室ではアウトプット主義のため、そうした研究会での成果が書籍や記者発表などの形になって世に問う機会がかなりの確率で確保されるということです。研究している身としては、とてもやりがいを感じるようになります。

また、ゼミのある日には、ほとんど毎回、ノミネーションが行われています。実は、このノミネーションという言葉をつづつたのは坂本先生ご本人という説が有力ですが、これがあるためにゼミ生間、とても仲のいい関係を築けています。ハードさも楽しさも日本でいちばん満喫できる研究室です。 ■ (小林秀司)

コラム 市谷LIFE③ 釣堀

法政大学の象徴といえるポアソナードタワーを背に外堀に架かる新見付橋の両サイドに過去にドラマでも使われてきた有名な



釣堀の風景

スポーツがある。外堀内の飯田橋駅側にカナルカフェ。市ヶ谷駅側に釣堀。どちらも法政から非常に近くに位置するが、法政の学生内で「カナルカフェに行ってきた」という話や「釣堀いってくるわ」といった話題はなかなか耳にしない。近くにあっても利用しないというのはよくある話である。そこで今回は編集委員、自らが体験する形で市ヶ谷駅方面の釣堀へ、読者の皆様を案内させていただくことにする。

市ヶ谷駅のホームからも見える釣堀は「市ヶ谷フィットネスセンター」という。観賞魚や水草、水槽をはじめとする用品コーナー、花の鉢植えなどの植物のコーナーなどを併設している。その中でも、やはり駅のホームからも見える釣堀は多くの人の目を引く。ここでは鯉を釣ることが出来る。

編集委員が訪れたのは土曜の午前中であったが、すでに多くの釣堀客が、釣糸を垂らしていた。早速、編集委員も釣堀に初挑戦。窓口でサオとエサ、網を受け取る。料金は一時間：大人690円、女性590円、サオとエサそれぞれ100円と80円という設定だ。

場所を決めたら、大きな粘土状のエサを豆粒ほど取り、釣針に付けセッティング。釣堀の真ん中へ投げ入れようとするが、自分の目の前に漂着。これが初心者の実力かとびきりデカイ鯉を釣り上げて読者の皆様にお見せするつもりでいたが、出鼻を挫かれた。釣り針を投げ入れるのに慣れてきたかと思えば、あつという間に30分、一時間と時間が過ぎ去りタイムアップ。近くで釣っている釣名人の網の中は無数の鯉でごつた返しているというのに、編集委員の収穫といえば手に付いた釣餌の臭いだけ。なお、初心者でも楽勝に釣れるという声もありますので、編集委員の残念な結果はあまり参考になさらず。休講の時間潰しなど、皆さんの市ヶ谷ライフに取り入れてみては。

(堀江慶子)

プロジェクト紹介③

本年度から、「地域活性化特論」(担当—中嶋聞多教授)と「地域活性化論」(担当—宮木いつべい准教授)が開講されました。この「地域活性化特論」「地域活性化論」は、



中嶋教授・宮木准教授

本学が、地域特性の異なる3つの大学(札幌学院大学、高知工科大学、沖縄大学)と連携して取り組む「まちづくりリスト育成プログラム」(平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム採択事業」)の基幹科目です。

「地域活性化特論」は、大学院政策創造研究科の科目で、社会人を中心とした大学院生が履修できます。「地域活性化論」はキャリアデザイン学部で、2年生以上が履修できます。また、他学部にも公開されており、9つの学部(法・文・経営・GIS・国際文化・経済・社会・現代福祉・情報科学)の3年生以上の学生が履修できます。科目名は違いますが、同じ時間に同じ教室で開講される、大学院と学部の合同授業のため、院生と様々な学部の学生が一緒

になって授業を受け、多様な立場から議論が展開されています。

前期は、全国各地の地域活性化事例について、受講生による事前調査、発表、全体討議をおこない、問題の発見から解決策の提示にいたる実践的な問題解決プロセスを参加者全員で共有しました。

夏季休暇中には、空知(北海道)、榛原町(高知)、久高島(沖縄)、小布施町(長野)、三鷹市(東京)にて、各大学が主催するインターンシップが実施され、大学の学生が相互に参加し合い各地で顔を合わせ、異なる地域において地域づくりの現場を体験しました。なお、法政大学は、三鷹市と小布施町でのインターンシップを担当しました。

後期は、4つの大学(札幌学院大学、法

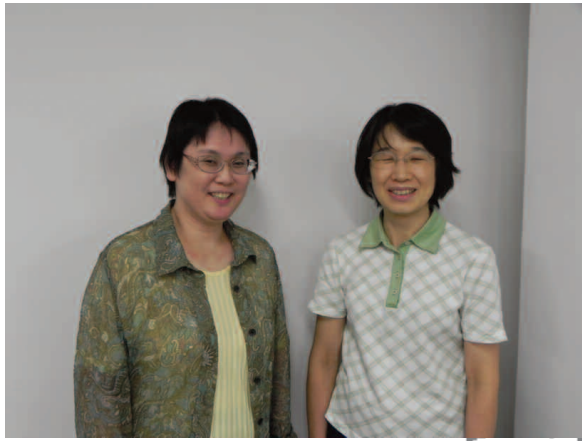


三鷹でのインターンシップの様子

政大、高知工科大学、沖繩大学)を結んだ遠隔授業が実施されます。各大学、各地域の学生が全て映り、それぞれフィールドワークで得た知識を交換し合い、取り組んでいる地域活性化事例を紹介します。受講生は前期の授業で培った問題解決プロセスの観点から双方向で議論をおこないます。これらを通して、地域づくりを現場で担うために必要な実践的な知識やスキルを身につけることができます。■(那須田摩美)

退任・新任教員

当研究科の創設時から教鞭をとられてきた岡田恵子教授が、この8月をもって退官されました。岡田先生は内閣府の方から赴任され、調査法や生活政策論をご担当され



田町先生(左)、岡田先生(右)

ましたが、丁寧な指導法と親しみやすい講義は多くの学生の記憶と単位に残っていることでしょう。去る8月1日には、岡田先生の慰労と今後のご活躍を祈り、諏訪先生の音頭でお世話になった教員・学生一同の壮行会が大学院内で行われました。

私は昨年度の岡田先生の授業でTAを務めました。学生一人一人の進捗や修士論文との関係を見ながら講義指導をされておられ、舞台裏でも感心しておりました。退任される先生を見送るのは、寂しいことですが岡田先生の今後のご活躍をお祈りしたいと思います。

なお、岡田先生の後任として新たに着任されたのは、官公庁・長崎大学にて景気統計・開発経済等を研究されてきた田町典子教授です。早速、8月の夏期集中講義(地域再生システム論)からご担当されておりますが、今後の講義が楽しみです。

岡田先生からのメッセージ

この研究科では、お仕事をなさりながら研究に取り組まれる方が多く、自分自身も多くの刺激を受けました。みなさん、両立は大変だと思いますが、是非、時間を有意義にお使いになり、研究成果をまとめていただきたいと思います。

田町先生からのメッセージ

お仕事の後でさらに勉強しようという、社会人の皆さんの熱意に感銘を受けます。大変なことも多いでしょうが、少しずつ

も蓄積を増やしていただきたいと思いきし、またそのお手伝いが出来れば幸いです。■(鈴木美伸)

新着情報

シンポジウム

11月13日(土)

法政大学大学院政策創造研究科

公共政策創造群シンポジウム

「女性が大学院を変える

—知識社会への飛躍—

時間—13時10分〜16時45分

場所—法政大学市ヶ谷キャンパス

ボアソナード・タワー26階

スカイホール

参加費—無料

主催—法政大学大学院政策創造研究科

問い合わせ—法政大学大学院事務部

大学院課 政策創造研究科事務室

E-mail: rpd-j@hosei.ac.jp

<http://chiikizukuri.gr.jp/blog/2010/10/post-46.html>

post-46.html

12月4日(土)

法政大学大学院政策創造研究科

都市文化創造群シンポジウム

「縮小都市の未来

—まちづくりの事例から考える—

時間—15時00分〜17時00分

場所—法政大学市ヶ谷キャンパス

ボアソナード・タワー26階
スカイホール

参加費—無料

主催—法政大学大学院政策創造研究科

問い合わせ—法政大学大学院事務部

大学院課 政策創造研究科事務室

E-mail: rpd-j@hosei.ac.jp

<http://chiikizukuri.gr.jp/blog/2010/10/post-47.html>

post-47.html

編集後記

本研究科のパソコンでニュースレターの編集作業をしているとき、黒川先生の写真を見た中村さん(黒川研究室)が「わあ、先生かっこいい。」と満面の笑みを浮かべました。今月号でプログラム紹介をしてくれた坂本研究室の小林さんも坂本先生への熱き想いが伝わってきます。本研究科は、指導教員を心から慕っている方の割合が高いです。つまり魅力ある先生が揃っているということですね。■(那須田摩美)

政策創造学ニュースレター第8号

編集・発行

法政大学大学院政策創造研究科内

政策創造学ニューズレター編集委員会

(浅田眞澄美、井嶋充憲、鈴木美伸、

那須田摩美、堀江慶子、横井友美加)

発行—2010年10月31日